

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts

@KCUA
KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY



京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA 2015年度年次報告書 Annual Report 2015-2016

京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
2015年度年次報告書
Annual Report 2015-2016

@KCUA
KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY

京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

2015年度年次報告書

Annual Report 2015-2016

@KCUA

KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY

目次

@KCUAについて	04
2015年度 事業総括	06
展覧会	09
イベント他	41
刊行物	48
平面図	50
運営委員会	52

CONTENTS

04	About @KCUA
06	2015-2016 Overview
09	Exhibitions
41	Events, etc.
48	Publications
50	Floor Plan
52	Steering Committee

京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA について

京都市立芸術大学では、京都市西京区の学内施設として1991年より芸術資料館を開館し、陳列室で所蔵品の展示を行うほか、大小二つの学内ギャラリー、学生会館など展示に使用できるスペースを持ち、また時にアトリエ棟や新研究等なども活用しながら展示活動を継続しています。これらは作品鑑賞の機会を提供し、また学生たちの日頃の活動成果を公開する実験的発表の場としても機能しています。2010年春、京都堀川音楽高等学校の新築移転に伴って、その敷地内南側にギャラリー棟（堀川御池ギャラリー）ができ、そこに京都市立銅駝美術工芸高等学校と共に、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA（アクア）が2010年4月2日からオープンしました。

「@KCUA」は大学の英語表記「Kyoto City University of Arts」の頭文字に場所を示す「@」を加えたもので、音読みするとラテン語の「アクア=水」となります。生命を養う水のように、芸術が人々の暮らしに浸透し、創造力豊かな社会に貢献するという本学の理想を表現しています。アクア・プロジェクトとは「京都市立芸術大学の三つの機関、美術学部・音楽学部・日本伝統音楽研究センターが連携して、ユニークな芸術研究・教育の一端を地域社会に開いていく試み」として開始されたもので、当ギャラリーにも同様の意図が込められています。@KCUAに期待される役割には、以下の3つがあります。

①教育・研究成果を広く市民へ公開すること

創立以来130年にわたって本学では、様々な成果を生み蓄積し、大学の内外で公表しています。京都市の中心部に発表の場ができたことによって、より身近な場で市民に公開できる機会が得られることになりました。ここでは在校生、教員および卒業生の研究成果に基づく展覧会、ワークショップ、講演・講座等を市民向けに開催すると共に、京都を中心とする産業界や教育機関、研究機関との連携プロジェクトの成果を発表することが期待されます。

②芸術文化創出の人材交流の場とすること

ギャラリーにおける展覧会、ワークショップ、講座等の企画に際し、成果の公表そのものを目的とするだけでなく、学内、同窓会、市民、産業界、教育関係諸機関、研究所などとの連携プロジェクトを通じて、広く人々が交流できる場を形成します。

③芸術資源の連携活用のサテライト機能を果たすこと

本学と市民、京都市、産業界、他の諸機関が連携するにしても、基盤となるのは、情報の収集と交換です。京都が有する芸術資源としての人、物、場所、風景や景観、技術、材料、暮らしの知恵に関わる情報を収集し、蓄積し、交流させる機関が必要となります。本ギャラリーは、衛星的な位置を利用して、情報の収集、蓄積、交換（発信と受信）の一翼を担います。

京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA 外観



京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA 展示室(上:@KCUA 1/ 下:@KCUA 2)

写真 | 来田 猛 Photos by Takeru Koroda

2015年度 事業総括

花びらに導かれて——流動体としての@KCUA

元崇仁小学校の正門付近にある一本の桜の木が少しずつ蕾を開くの眺めていたあの頃、春の訪れとともにこの年度が明けたのだと記憶している。京都市立芸術大学移転整備プレ事業「still moving」が2015年3月7日に開幕してから5月10日に閉幕するまでの約2ヶ月間、私は毎週末を元崇仁小学校で過ごしていた。この場所での時間の流れ方は、@KCUAのそれとはなんとなく異なる。平日と週末、揺らぐ時間軸の中を彷徨いながら二つの場所を行き来するうちに、@KCUAのこれからについて、これまでとは違った視点から捉えるようになっていった。「大学移転」がより現実的なものを感じられ、今後の@KCUAの立ち位置を改めて考えざるを得なかったのだ。現在は京都市中心部から離れた西京区大枝杏掛町にある大学キャンパスのサテライト施設として活動する@KCUAであるが、やがてこのキャンパスが街中へ移るとき、@KCUAの役割はどのようなものへと変化するのか、あるいは何を指すべきなのか。あの一本の桜の木は、移転後の@KCUAの姿を求めて模索する日々の始まりをも告げていた。

展覧会事業

@KCUA 企画の特別展のほか、申請展や大学事業を合わせて計18本の展覧会を実施した。昨年度よりさらに多くの外部資金を得て、さらなる内容の充実を図ることができた。なかでも「死の劇場——カントルへのオマージュ」にて、会場構成に建築家の松島潤平を迎え、展示室内に大規模かつ大胆な構造物を据えた、コンセプトualな空間が出現したことは特筆すべきことである。展覧会設営の現場は、@KCUAの開館以来、これほど過酷だったことはなかったと断言できるほど困難を極めたが、良くも悪くも数々のドラマを経て生まれたその空間は、神がかっていると言っても過言ではないほど不思議に豊かな表情を湛えており、また強烈な印象を与えるものとなった。そして、同展を含む当年度における海外作家の展覧会への出展は5名7件となった。昨年にも増して国際的に活躍するアーティストを紹介してきたことでは、@KCUAの活動の認知度をより高めたのではないだろうか。

ARTIST WORKSHOP @KCUA (平成27年度文化庁 次代の文化を創造する新進芸術家育成事業「アーティストの招聘による多角的なワークショップなどを通じた新進芸術家育成事業」)

プロジェクトの3年目を迎えた当年度は、ネリー・ソニエ(羽根細工、フランス)、パヴェウ・アルトハメルとアルトゥル・ジミェフスキ(共に映像・インスタレーション、ポーランド)、グイド・ヴァン・デル・ウェルヴェ(映像、オランダ)の4名3組のアーティストを講師とした三つのワークショップ事業を実施した。うち、ソニエの「Feather」、アルトハメルとジミェフスキの「House of Day, House of Night (昼の家、夜の家)」の二つは講師と育成対象者の両方が出品する形での成果発表展を実施したが、これらのワークショップが育成対象者たちに大きく影響を与え、それぞれに新境地を開いたことを見て取ることで内容となった。本プロジェクトは、当年度をもっていったん区切りとするが、@KCUAでは引き続き、そのさまざまな形を探しながら、若手作家支援の活動を展開していくことになる。

石橋義正新作公演「ZERO ZONE——人工知能は陸橋で積み木をつむデスカ」

当年度は@KCUAの企画制作により、先に述べた「死の劇場——カントルへのオマージュ」の関連企画として、舞台公演を1本実施した。本学美術学部構想設計専攻准教授で、映画監督・美

術家の石橋義正による新作舞台公演「ZERO ZONE——人工知能は陸橋で積み木をつむデスカ」(会場：京都芸術センター)である。昨年度の「still moving」に引き続き、施設内のみならず外へ飛び出して大きな事業をやり遂げたこと自体も達成感のあるものだが、それだけではない。このことによって@KCUAは、堀川御池ギャラリーの建物に属する展示施設というだけでなく、展覧会というフォーマットにとどまらないフレキシブルな活動を展開するプロジェクト集団、あるいは流動体としての「@KCUA」へと進化したのだと確信している。

移転整備プレ事業

京都芸術センターのアーティスト・イン・レジデンスで滞在制作を行った山本浩貴と共にリサーチを実施したり、美術家の山本麻紀子とhyslomを講師とした、下京区ふれあい事業実行委員会なかまづくり部会ならびに下京区役所主催のワークショップ事業「親子で伝書鳩を飛ばそう」の企画・制作、次年度の「still moving - on the terrace」につながるフィールドワークなど、2015年3月から5月の「still moving」以後も、移転予定地である崇仁地域を中心とした活動は続いている。また、当年度に制作した「still moving」の記録集は、美術関係者や芸術関連施設をはじめ、多方面から高い評価を受けた。

たねまきアクア

上記のように、@KCUAが展開する事業は多岐にわたるが、展覧会として表れるもの以外には一般来場者の目に触れることが少ない。京都からはじまるさまざまな創造活動の「種」をまくかのように、新たな場を求めて開墾し続ける@KCUAの活動を、展覧会とは別の形で表現することを目指して、広報誌「たねまきアクア」は生まれた。デザインは若手ではあるが丁寧なデザインに早くも定評のある気鋭のデザイナー、仲村健太郎が手がける。記念すべき創刊号を2016年1月に発行。その後も不定期ではあるが、その時々合わせた特集記事のほか、京都内外で活躍するアーティストのスタジオ紹介やさまざまな分野の専門家によるコラムなど多種多様なコンテンツを通して、@KCUAの「たねまき」についての発信を続ける。

このように多くの事業に取り組んだ当年度ではあったが、とりわけ@KCUA学芸員二人のうちの一人、徳山拓一が京都市文化芸術特別奨励者として海外研修を行うために不在となった約半年間は日々多忙を極め、まさに「茨の道」を進むかのような心持ちであった。なんとかこの時期を乗り切ることができたのは、設営を一手に引き受け、類稀なる技術力で現場を統率してくださった美術家の池田精堂氏、広報面を中心に強力なサポートをいただいたリレーリレーの西谷枝里子氏、日々の運営を支えてくださった岸本光大氏をはじめとして、お名前を挙げればきりがなほど本当にたくさんの方々に支えられたからにはかならない。この場を借りて、改めてお礼を申し上げたい。また当年度をもって、徳山は@KCUAを退職し、新たな道へ進むこととなった。前学芸員の森山貴之氏が礎を築き、その存在感を高めていった@KCUAの活動とその可能性をより大きなものとしたのは他ならぬ彼の功績である。新天地でのさらなる活躍を祈りつつ、この筆を置くこととする。

藤田 瑞穂(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA 学芸員)

展覧会
Exhibitions

凡例

- ・肩書きは2015年度当時
- ・Names are listed in Japanese alphabetical order (some exceptions may apply).
- ・Japanese names are listed with the given name before the surname.
- ・Titles and positions are listed as of the date of the exhibition or event.
- ・All exhibitions and events held at Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA unless otherwise noted.



写真 | 来田 猛 Photos by Takeru Koroda

2015.5.16 Sat - 6.21 Sun

マテリアライジング展Ⅲ 情報と物質とそのあいだ



展示室	@KCUA 1, 2, Gallery A, B, C
開催日数	32日間
入場者数	2,045人
企画	砂山 太一(マテリアライジング展企画室代表、京都市立芸術大学美術学部特任講師) 森山 貴之(横浜美術大学美術学部准教授)
主催	マテリアライジング展企画室 京都市立芸術大学
助成	芸術文化振興基金 公益財団法人 朝日新聞文化財団
協力	横浜美術大学 東京藝術大学 millegraph 株式会社 ゆう建築設計
協賛	i.materialise 株式会社 アプリクラフト トロテック・レーザー・ジャパン 株式会社
印刷物	フライヤー、ポスター デザイン: Semitransparent Design A5判カタログ(2冊組) 編集・発行: マテリアライジング展企画室 発行日: 2015年7月

Curated by Taichi Sunayama (Specially Appointed Lecturer, Kyoto City University of Arts) and Takayuki Moriyama (Associate Professor, Yokohama College of Art and Design). Organized by the Materializing Exhibition Planning Committee and Kyoto City University of Arts with additional funding from the Japan Arts Council and the Asahi Shimbun Foundation; the cooperation of Yokohama College of Art and Design, Tokyo University of the Arts, millegraph co. Ltd., and U sekkei, Inc.; and the sponsorship of i.materialise, AppliCraft Co., Ltd., and Trotec Laser Japan, Inc.

Printed matter

Flyer and poster designed by Semitransparent Design

A5-sized catalogue (set of 2) edited and published by the Materializing Exhibition Planning Committee in July 2015



出展作家 ARTISTS

- hclab.
hclab.
- 木内 俊克 + 砂山 太一 + 永田 康祐
Toshikatsu Kiuchi, Taichi Sunayama, and Kosuke Nagata
- 重松 あゆみ
Ayumi Shigematsu
- 城 一裕
Kazuhiro Jo
- 鈴木 雄貴
Yuki Suzuki
- 館 知宏
Tomohiro Tachi
- 谷口 暁彦
Akihiko Taniguchi
- 田部 井 勝
Masaru Tabei
- dot architects × 水野 大二郎 × Fablab北加賀屋
dot architects, Daijiro Mizuno, and Fablab Kitakagaya
- 中原 浩大
Kodai Nakahara
- 久門 剛史
Tsuyoshi Hisakado
- 加藤 大直 + 佐々木 崇人
Hironao Kato and Takahito Sasaki
- 松井 茂 + 仲井 朋子
Shigeru Matsui and Tomoko Nakai
- 渡邊 朋也
Tomoya Watanabe
- 山本 悠
Yuu Yamamoto

近年、国内でもレーザーカッターや3Dプリンタなどのデジタルファブリケーション技術が注目され、デザインツールのオンライン化、機材の汎用化とともに、普及のためのインフラストラクチャー整備と啓発活動が盛んに行われている。また、デジタルファブリケーションが社会に開かれる一方で、その技術体系にある革新性、すなわち数値情報から多産的・可変的に生成される「かたち」のありようや、その根源にある人間の創造的思考と進展するテクノロジーとの協働をめぐる探求は、都度テクノロジーやメディアと接しながらその意味を問うてきた芸術表現の世界でも、重要な関心と呼びつつある。

本展はデザイン、工芸、建築、現代美術、メディアアートから都市工学、図法工学、計算幾何学、構造力学に及ぶ領域横断的な展覧会として開催し、情報と物質の往還的思考がもたらす新たな表現と、その創作プロセスにあるテクノロジーと人間の批評的關係について考察した。

関連イベント

5月16日(土)

- ギャラリートーク 司会: 森山 貴之
- オープニングレセプション

5月16日(土)、5月17日(日)、5月31日(日)、6月7日(日)、6月14日(日)

- trotec, AppliCraft協賛 saccsac ワークショップ「お気に入りの紙で封筒をつくってみよう」

5月17日(日)

- 協賛企業セミナー (i.materialise) 「進化する3Dプリント用素材 — 金属、セラミック3Dプリントの仕組みとデザインのコツ—」
- トークイベント 登壇者: 秋庭 史典(名古屋大学情報文化学部准教授)、出展者ならびに砂山 太一・森山 貴之

6月21日(日)

- トークイベント スピーカー: 谷口 暁彦、砂山 太一
- サウンドイベント 出演: [ゲスト] 藤本 由紀夫、Cryogenic Rhythm Science(大和田 俊 + 網守 足平) [出展者] 谷口 暁彦、城 一裕

2015.6.27 Sat - 8.2 Sun

月が水面にゆれるとき among those intangible...

出展作家 | ARTISTS
木藤 純子
Junko Kido
曾谷 朝絵
Asae Soya
中村 牧子
Makiko Nakamura
和田 真由子
Mayuko Wada



1. 木藤 純子 Junko Kido



3. 和田 真由子 Mayuko Wada



4. 曾谷 朝絵 Asae Soya



2. 中村 牧子 Makiko Nakamura

1. 写真 | 市川 靖史 Photo by Yasushi Ichikawa 2. 3. 4. 写真 | 来田 猛 Photos by Takeru Koroda

展示室 | @KCUA 1, 2, Gallery A, B, C
開催日数 | 32日間
入場者数 | 2,284人
企画 | 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
主催 | 京都市立芸術大学
助成 | 芸術文化振興基金
公益財団法人 野村財団
協力 | I.TOON Ltd. 株式会社 アダチ 今井 敏二 有限会社 植田屋染工場 京都市立芸術大学キャリアデザインセンター
神戸アートビレッジセンター 児玉画廊 Stance Company Ltd.
東京芸術大学大学院 映像研究科アニメーション専攻 伊藤有彦研究室 中嶋 午郎 西村画廊
株式会社 フィリップス エレクトロニクス ジャパン 株式会社 ホースケアプロダクツ 前田 賢一
Masafumi Morimoto 山岡 信貴
印刷物 | フライヤー、ポスター デザイン：氏デザイン
B5判カタログ、たねまきアクア01(48-49ページ参照)

Curated by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA. Organized by Kyoto City University of Arts with additional funding from the Japan Arts Council and Nomura Foundation, and the cooperation of Adachi Co., Ltd., Goro Nakajima, Horse Care Products Ltd., Toshiji Imai, I.TOON Ltd., Kenichi Maeda, Kobe Art Village Center, Kodama Gallery, Kyoto City University of Arts Career Design Center, Masafumi Morimoto, New Media at Tokyo University of the Arts Yuichi ITO Laboratory, Nishimura Gallery, Philips, Stance Company Ltd., Uetaya Co., Ltd., and Nobutaka Yamaoka

Printed matter

Flyer and poster designed by Ujidesign
B5-sized catalogue and Tanemaki Akcua 01 (see pp. 48-49)

関連イベント

- 6月27日(土)
 - オープニングイベント：ギャラリートーク+オープニングレセプション
協力：みず色クラブ、カヌレ、京都市立芸術大学キャリアデザインセンター
- 7月4日(土)
 - トークイベント：中村 牧子 + 渡里 久美子(ファッションデザイナー /migh-t BY KUMIKO WATARI)
 - ポップアップショップ
- 7月11日(土)
 - トークイベント：「芸大卒女子のお仕事ミーティング」
登壇者：片岡 真純(宮内庁正倉院事務所 保存課 整理室員)、
広山 幸江(株式会社 リーフ・パブリケーションズ 編集製作局 編集製作部 ディレクター)、西谷 枝里子(フリーランスアート広報)
司会：とんぼせんせい(イラストレーター)
協力：京都市立芸術大学キャリアデザインセンター
- 7月12日(日)
 - トークイベント：和田 真由子 + 建島 哲(詩人・美術評論家)
- 7月20日(月・祝)
 - 木藤純子展示空間内パフォーマンス
出演：山崎 昭典(ギタリスト/作曲家)、木藤 純子
- 7月26日(日)
 - トークイベント：「アートと子育て」
登壇者：東 明(アーティスト)、フジタマ(アーティスト)、
西尾 咲子(京都芸術センター アートコーディネーター)
司会：小山田 徹(京都市立芸術大学美術学部教授)
- 8月2日(日)
 - クローゼイングイベント：曾谷朝絵展示空間内パフォーマンス
出演：山根 明季子(作曲家)

京都市立芸術大学に在籍する学生のうち、女子学生が占める割合は増加し続けていて、もはや9割に近づきつつある。本企画は、芸術大学を卒業した女性たちは何を目指し、どこへ向かおうとしているのか、という問いを起点とした、展覧会とイベントで構成されるプロジェクトである。展覧会では、日常の中で見過ごしてしまいがちなものを自らの身体感覚でとらえ、それぞれの手法で作品に表現する4人のアーティスト、木藤純子・曾谷朝絵・中村牧子・和田真由子の作品を紹介した。現実の世界の見えざる断片をとらえ、追求することで作品世界を展開する彼女たちは、かつてパウル・クレーが「芸術の本質は、見えるものをそのまま再現するのではなく、見えるようにすることである」との言葉を残したように、まさに芸術の本質を見据えているのである。また、各種イベントなどを通してさまざまな分野で活躍する芸術大学出身の女性たちの、アートに限定されない実に多彩な活動を紹介した。



写真 | 大島 拓也 Photos by Takuya Oshima

出展作家 | ARTISTS

- 山/完全版
Mountain/Full Edition
- 安東 星郎
Hoshiro Ando
- 伊藤 存
Zon Ito
- いまい けんたろう
Kentaro Imai
- 上村 絵梨子
Eriko Kamimura
- げいまきまき
Gaymakimaki
- ジュリー・ペレイラ
Julie Pereira
- 神藤 知子
Tomoko Jindo
- 谷口 かな
Kanna Taniguchi
- チビガッツ
Chibiguts
- チビキッチュ
Chibikitsch
- パラモデル なかの (中野 裕介)
Paramodel Nakano (Yusuke Nakano)
- 藤本 隆行
Takayuki Fujimoto
- 松村 康平
Kohei Matsumura
- 南 隆雄
Takao Minami
- 藪内 美佐子
Misako Yabuuchi
- UFO
UFO



2015.8.6 Thu - 8.23 Sun

鳥丸由美「フェーシング・ヒストリーズ」

出展作家 | ARTIST

鳥丸 由美
Yumi Karasumaru

展示室 | @KCUA 2

開催日数 | 16日間

入場者数 | 827人

主催 | 京都市立芸術大学

企画協力 | 特定非営利法人 IEP College 菊田 樹子

協力 | ミヅマアートギャラリー

印刷物 | フライヤー デザイン: 古谷 哲朗

A4変形判作品集『Facing Histories: Yumi Karasumaru』 編集: 菊田 樹子
発行: フェーシング・ヒストリーズ展実行委員会 発行日: 2015年7月20日

関連イベント

- 8月6日(木)
- オープニング・イベント
 - ・朗読パフォーマンス「フェーシング・ヒストリーズ」音楽: 荒木 真歩
 - ・オープニング・パーティー
- 8月9日(日)
- メモリアル・イベント
 - ・朗読パフォーマンス「フェーシング・ヒストリーズ」音楽: 荒木 真歩
 - ・アーティスト・トーク
 - 聞き手: 藤田 瑞穂(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA 学芸員)

Curated with the cooperation of IEP College and Mikiko Kikuta. Organized by Kyoto City University of Arts with the cooperation of Mizuma Art Gallery

Printed matter
Flyer designed by Tetsuro Furutani
A4-sized catalogue edited by Mikiko Kikuta and published by the Facing Histories Committee on July 20, 2015

広島、長崎への原爆投下、そして終戦から70年の節目にあたる2015年。本展は、イタリア在住歴27年のアーティスト・鳥丸由美が祖国の歴史をあらためてふり返り、地獄絵のごとくだったのであろう、広島や長崎をはじめとする戦争のカタスト

ロフィと対峙した作品シリーズを通観するものである。70年という「とき」の変遷、家族の歴史や個人のヒストリーにも「向き合い(フェーシング)」ながら、アーティストのさまざまな思いや感情、祈りを、100枚以上に及ぶタブローとドローイングに託して展示を行った。関連企画として、原爆投下後70年の日となる8月6日と9日に、鳥丸自身による朗読パフォーマンスが披露された。鳥丸にとって、パフォーマンスは絵画と共に大切な表現手段であり、今回は絵画によるインスタレーションとパフォーマンスという意欲的な組み合わせで新たな世界観を提示する試みとなった。



2015.8.8 Sat - 8.23 Sun

山/完全版のいきいきセンター

展示室 | @KCUA 1

開催日数 | 14日間

入場者数 | 951人

企画 | 山/完全版

主催 | 京都市立芸術大学

協力 | 京都市東山いきいき市民活動センター 京都芸術センター制作支援事業

協賛 | 株式会社 資生堂

印刷物 | フライヤー デザイン: 松村 康平

Planned by Mountain/Full Edition. Organized by Kyoto City University of Arts with the cooperation of the Kyoto-shi Higashiyama Ikiiki Shimin Katsudo Center and Kyoto Art Center, and the sponsorship of Shiseido

Printed matter
Flyer designed by Kohei Matsumura

山/完全版はこれまで、パフォーマンス、ハプニングなどもバンドの概念を拡大・変形するために積極的に取り入れ、既存の音楽発表の枠にとらわれない表現のあり方を模索してきた。このバンドが今回は展覧会として発表することで、予定調和を崩し、展覧会のあり方そのものを変えていくことを目指した。

多様なバックグラウンドをもつメンバーの多岐にわたる関心事(自然、レイシズム、環境、笑い、原発など)を展示に包括し、それらは展覧会の内容と作品の内容が呼応するかのようには輪郭を変容し続ける。展覧会期間中に行われるセッションやさまざまな試みが展示にフィードバックされ統合されることで、バンドという小さな社会が展覧会場の中でのどのような機能を果たすのか、また全体を通じて展覧会にどのような変化がもたらされるのかということを実験する場となった。





写真 | 大島 拓也 Photo by Takuya Oshima

2015.8.27 Thu - 9.6 Sun

京都市立芸術大学芸術資料館収蔵品展

ARTであしあと6 図案科卒業・修了作品 衣によそおう

展示室 | @KCUA 1
開催日数 | 10日間
入場者数 | 418人
企画 | 京都市立芸術大学芸術資料館
主催 | 京都市立芸術大学
印刷物 | フライヤー デザイン: 池田 亜耶子

Curated by the Kyoto City University of Arts Art Museum and organized by Kyoto City University of Arts

Printed matter

Flyer designed by Ayako Ikeda

本学芸術資料館の収蔵品より、京都市立美術工芸学校図案科卒業作品の中から、明治後期より昭和戦前期までの間に制作された衣装及び装身具に関わる作品を選び紹介した。長い歴史の中で伝統産業の分野に多くの人材を送り出してきた図案科であるが、その教育は図案意匠の制作に特化しており、実制作に結びつく教育は地域の工房にゆだねるなど、京都に根付いた分業体制の中で展開していた。結果として図案家の活動は見えにくくなり、今日ではその足跡が辿れない人も少なくない。

本展で展示した卒業作品は、京都における二大染織産業である友禅染と西陣織による制作のための図案である。当時、日清戦争後の日本の軽工業の発展を受けて、京都でも染物や織物の需要に応える必要が生まれてきた。出展作品から、京都染織産業界の華々しい発展と歩みを共にした衣装図案の世界から窺い知ることができる。



出展作家 | ARTISTS
青山 太郎
Taro Aoyama
安東 睦郎
Mutsuro Ando
柴田 大介
Daisuke Shibata
鈴木 孝平
Kohei Suzuki
橋爪 皓佐
Kosuke Hashizume
前田 菜月
Natsuki Maeda
町田 藻映子
Moeko Machida



写真 | 大島 拓也 Photos by Takuya Oshima

2015.8.29 Sat - 9.6 Sun

未知の標本

展示室 | @KCUA 2
開催日数 | 8日間
入場者数 | 412人
主催 | 京都市立芸術大学
協力 | 京都芸術センター
印刷物 | フライヤー デザイン: 茗荷 恭平

Organized by Kyoto City University of Arts with the cooperation of Kyoto Art Center

Printed matter

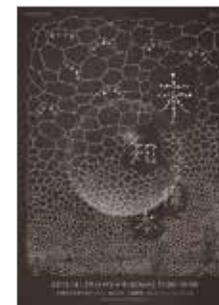
Flyer designed by Kyohei Myoga

関連イベント

- 8月29日(土)
 - オープニングイベント「標本についてしゃべる会」
 - ゲスト: 小山田 徹 (京都市立芸術大学美術学部教授)
- 9月6日(日)
 - クロージングイベント
 - ・パフォーマンス「凝縮塊」
 - 出演: MoNoKo (町田 藻映子 + 佐藤 野乃子)、新美 菜利加
 - ・映像インスタレーション「counterline」「砂のトレモロ」
 - 制作: 橋爪 皓佐、白尾 佳也
 - ・パフォーマンス「等身大の野生児」
 - 出演: MoNoKo (町田 藻映子 + 佐藤 野乃子)、橋爪 皓佐

2014年夏に行われたアートプロジェクト「フェルトシュテルケ・インターナショナル2014」[※]に参加し、異なる文化に育ち、異なる表現方法を得意とする作家たちとともに3つの都市で共同制作・発表を行った7名の作家によるグループ展。彼らはこのプロジェクトを通して「他者」との出会いを通じて世界の未知をあらためて発見するという経験を得た。その後も「未知」という言葉を手がかりとした対話の場を作り、自らの世界との向き合い方、表現のあり方を仲間とともに探求して来た。本展では、目を凝らし、耳を澄ませ、言葉を尽くし、そのようにして立てられたこの世界をめぐるひとつの「答え」あるいは「問い」をそれぞれの形で提示した。

[※]京都芸術センター、ドイツ・エッセン市のPACT Zollverein、フランス・マルセイユ市montévidéoの三館のアートセンターが連携して実施した国際交流プロジェクト。各アートセンターが公募により大学で芸術を学ぶ学生10名を選出、計30名が三つのアートセンターに1週間ずつ滞在し、交流をしながら制作を行った。



出展作家 | ARTISTS

金沢美術工芸大学
Kanazawa College of Art

木村 江美香
Emika Kimura
小守 郁実
Ikumi Komori
前寺 由稀
Yuki Maedera

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts

安田 光
Hikari Yasuda
道廣 明日香
Asuka Michihiro
マツムラ アヤコ
Ayako Matsumura

東京藝術大学
Tokyo University of the Arts

山田 麻緒
Asao Yamada
徳増 洋乃
Hirono Tokumasu
内田 里奈
Rina Uchida



写真 | 大島 拓也 Photos by Takuya Oshima

2015.9.10 Thu - 9.27 Sun

つながる糸 ひろがる布 染織専攻学生選抜展

展示室 | @KCUA 2
開催日数 | 17日間
入場者数 | 1,533人
企画 | 京都市立芸術大学美術学部染織研究室
主催 | 京都市立芸術大学
印刷物 | ポストカード デザイン: 京都市立芸術大学美術学部染織研究室

関連イベント
9月10日(木) - 9月17日(木)
○京都市立芸術大学 染織3・4回生展
展示室: Gallery B

Curated by Kyoto City University of Arts Dyeing and Weaving Course and organized by Kyoto City University of Arts

Printed matter

Postcard designed by Kyoto City University of Arts Dyeing and Weaving Course



金沢美術工芸大学、京都市立芸術大学、東京藝術大学からそれぞれ選抜された、染織専攻の大学院生によるグループ展。2014年に東京、2015年に京都、2016年には金沢、と会場を移しながら続く上記三大学の交流展として開催した。



写真 | 大島 拓也 Photo by Takuya Oshima

2015.9.12 Sat - 9.23 Wed

東日本大震災復興支援・芸術活動支援チャリティーオークション SILENT @KCUA 2015



展示室 | @KCUA 1
開催日数 | 12日間
入場者数 | 1,385人
主催 | 京都市立芸術大学サイレントオークション実行委員会
後援 | 京都市
京都市教育委員会
京都市立芸術大学美術学部同窓会
京都市立芸術大学美術教育研究会
印刷物 | フライヤー、ポスター、ポストカード デザイン: 仲村 健太郎
B5判カタログ(48ページ参照)

関連イベント
9月12日(土)
○オープニングレセプション

Organized by the Kyoto City University of Arts Silent @KCUA Committee with support from Kyoto City, Kyoto City Board of Education, the Alumni Association of Kyoto City University of Arts (Faculty of Fine Arts), and Kyoto City University of Arts Art Education Society

Printed matter

Flyer, poster, and postcard designed by Kentaro Nakamura
B5-sized catalogue (see p. 48)

チャリティーオークション「SILENT @KCUA(サイレントオークション)」は、東日本大震災の復興に関わる活動をしている団体等を広く支援することを目的として、2011年より10年間の継続を目標として実施している。入札方法にサイレントオークションを採用し、さらに作家名を伏せて作品を展示するという形式をとっている。本年度は、ハガキサイズ程度の平面作品という従来の規定に新たに10cm立方程度の立体作品を加え、本学の学部生、院生、留学生、教員(非常勤含む)、旧教員、卒業生、修了生など本学ゆかりの作家194名から437点が集まった。収益の7割を被災地にて芸術を通じたボランティア活動、支援活動を行っている団体への活動資金として、また3割を京都市立芸術大学に在籍する学生の芸術活動の支援金(留学支援・奨学金)として寄付を行った。

出展作家 | ARTISTS
アンバー・カーディナル
Ambre Cardinal
ESMOD Osaka
ESMOD Osaka
西尾 美也、THEATRE PRODUCTS
Yoshinari Nishio and Theatre Products
リラ・ヌートゥル
Lila Neutre



写真 | 大島 拓也 Photos by Takuya Oshima

2015.9.26 Sat - 10.4 Sun

ニュイ・ブランシュKYOTO 2015 @KCUA

展示室 | Gallery A, B, C
開催日数 | 8日間
入場者数 | 835人
アドバイザー | 蘆田 裕史(京都精華大学)
石関 亮(京都服飾文化研究財団)
成実 弘至(京都女子大学)
主催 | 京都市
アンスティチュ・フランセ関西(旧 関西日仏学館)
共催 | 京都国際マンガミュージアム
京都芸術センター
京都市立芸術大学
京都市交通局
ヴィラ九条山
特別後援 | 在日フランス大使館
後援 | 外務省
パリ市
在京都フランス総領事館
助成 | アンスティチュ・フランセ パリ本部
協賛 | 東洋アルミニウム 株式会社
株式会社 エスディーヴィージャパン
ヴァンケン ボメリー ジャパン 株式会社
エルメスジャポン 株式会社
公益財団法人 稲盛財団
株式会社 フラットエージェンシー
有限会社 すわ製作所
上羽絵惣 株式会社
株式会社 建築画報社
一般社団法人 岡山日仏協会

関連イベント
42-43ページ参照
Related events on pp. 42-43

協力 | KYOTO CMEX 実行委員会
全日本空輸 株式会社
株式会社 高島屋 京都店
株式会社 竹尾
NPO 法人 エナジーフィールド
平成27年度 滋賀県「美の滋賀」創造事業
地域の元気創造・暮らしアート事業
MEDIA SHOP | gallery
maki izumikawa office
ハイアットリージェンシー 京都
REALKYOTO
印刷物 | フライヤー デザイン: 仲村 健太郎

Curated under the advisement of Hiroshi Ashida (Kyoto Seika University), Makoto Ishizeki (Kyoto Costume Institute), and Hiroshi Narumi (Kyoto Women's University). Organized by Kyoto City and Institut français du Japon-Kansai and co-organized by Kyoto International Manga Museum, Kyoto Art Center, Kyoto City University of Arts, Kyoto City Transportation Bureau, and Villa Kujoyama under the auspices of the French Embassy in Japan, with support from the Ministry of Foreign Affairs of Japan, the City of Paris, and the French Consulate General in Kyoto; with additional funding from Institut français, Paris; with the sponsorship of Toyo Aluminium K.K., K.K. SDV Japan, Vranken Pommeroy Japan Co., Ltd., Hermès Japon Co., Ltd., Inamori Foundation, Flat Agency Corporation, Suwa architects + engineers, Ueba Co., Ltd., and Association Franco-Japonaise de Okayama; and with the cooperation of the Kyoto CMEX Executive Committee, All Nippon Airways, Takashimaya Company, Limited Kyoto Store, Takeo Co., Ltd., NPO Energy Field, H27 Shigaken "Bi no Shiga" Sozo jigyo, Chikino Genki sozo/Kurashi Art jigyo, Media Shop | Gallery, maki izumikawa office, Hyatt Regency Kyoto, and REALKYOTO

Printed matter
Flyer designed by Kentaro Nakamura



パリと京都には芸術と工芸の長い伝統がある。そして、二つの都市はすぐれた服飾の文化を築いてきた。ニュイ・ブランシュKYOTO 2015では、ファッションを一つの切り口として、日仏の文化交流のあり方を探る試みとして「新しい時代のファッション」、「衣服と身体のあいだで」、「京都の新しいものづくり」という大きなテーマから、アーティスト、職人、デザイナーたちの創作が紹介された。京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAでは、リラ・ヌートゥル、アンバー・カーディナルの個展ならびに石関 亮(京都服飾文化研究財団)のキュレーションによる「新しい時代のファッション」展、またエスモードジャポン大阪校の学生が制作した作品の展示を行った。



パヴェウ・アルトハメル
Paweł Althamer
石橋 義正
Yoshimasa Ishibashi
オル太
OLTA
アルトゥル・ジミェフスキ
Artur Żmijewski
丹羽 良徳
Yoshinori Niwa
ミロスワフ・パウカ
Miroslaw Bałka
松井 智恵
Chie Matsui
ヨアンナ・ライコフスカ
Joanna Rajkowska



写真 | 来田 猛 Photos by Takeru Koroda

2015.10.10 Sat - 11.15 Sun

タデウシュ・カントル生誕100周年記念事業 死の劇場——カントルへのオマージュ

展示室 | @KCUA 1, 2
開催日数 | 32日間
入場者数 | 2,265人
会場構成 | 松島 潤平
展示美術工作 | 池田 精堂
安田 知司
企画 | 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
加須屋 明子(京都市立芸術大学美術学部教授)
主催 | 京都市立芸術大学
協賛 | ポーランド広報文化センター
Culture.pl
京都芸術センター
助成 | 平成27年度文化庁「優れた現代美術の海外発信促進事業」
公益財団法人 ポーラ美術振興財団
公益財団法人 アサヒグループ芸術文化財団
公益財団法人 花王芸術・科学財団
公益財団法人 朝日新聞文化財団

協力 | クリコテカ
タデウシュ・カントル財団
フォクサル画廊
シアターX(カイ)
MEM
有限会社 石橋プロダクション
フォクサル・ギャラリー財団
京都芸術センター
KYOTO EXPERIMENT
テラヤマ・ワールド
〈地球との対話〉プロジェクト21
多摩美術大学
後援 | 駐日ポーランド共和国大使館
日本ポーランド協会関西センター
NPO法人 フォーラム・ポーランド組織委員会
印刷物 | フライヤー、ポスター デザイン: 松本 久木
A5判カタログ、記録集(48ページ参照)

演劇のみならず奇才の美術家でもあったポーランドの異才タデウシュ・カントルの生誕100周年を迎えるにあたり、彼の偉業を演劇・美術の双方からのアプローチで回顧する記念事業「死の劇場——カントルへのオマージュ」を開催した。

カントルは第一次世界大戦の最中に生まれ、第二次世界大戦中から芸術家としての活動を開始、早くから国際的に名声を確立した。特にカントルの作品に見られる高い象徴性、死の表象、日常性への下降とその逆説的な意味の転換、時にユーモラスに、時に諧謔的に社会を挑発し、公共空間へと挑む手法がポーランドのみならず世界的な美術や演劇活動に与えた影響は大きい。本展では、会場構成に建築家の松島潤平を迎え、カントルの写真、日本に残るドローイング作品とともにポーランドと日本の作家7名1組の展示を行った。また上演記録映像の上映会、関連シンポジウムやパフォーマンス等の試みを通じ、カントルの受容とこれからの未来へ向けた現代的継承の豊かな可能性を示した。



関連イベント

- 10月10日(土)~11月3日(火・祝)
○タデウシュ・カントル関連映像上映会
会場: 京都芸術センター(10月10日のみ)、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
上映作品: 『死の教室』、クリコタージュ『こそこの雪は今いずこ』、『ヴィエロポーレ、ヴィエロポーレ』、『くたばれ! 芸術家』、『私は二度とここには戻らない』、『今日は私の誕生日』、『カントル』ほか
- 10月10日(土)
○シンポジウム Part 1「カントルの受容とその今日的継承」
会場: 京都芸術センター 講堂
スピーカー: アンナ・ブジンスカ(現代演劇論)、レフ・スタングレット(美術史家、タデウシュ・カントル財団代表、『クリコ2』俳優)、バルバラ・スタングレット(タデウシュ・カントル財団、『クリコ2』俳優)、ヨアンナ・ライコフスカ、加須屋 明子
- 10月11日(日)
○ギャラリートーク ○オル太 パフォーマンス「目覚め(GHOST OF MODERN)」 ○オープニングレセプション
- 10月12日(月・祝)
○タデウシュ・カントル関連作家上映会「オー!マイキー」スペシャル・エディション 上映&トーク
会場: 京都芸術センター スピーカー: 石橋 義正(監督)、橋本 裕介(KYOTO EXPERIMENT プログラムディレクター)
- 10月17日(土)、10月18日(日)
○石橋義正 新作舞台公演『ZERO ZONE——人工知能は陸橋で積み木をつむぐか』(24-25ページ参照)
- 10月24日(土)
○タデウシュ・カントル関連作家上映会 松井智恵映像上映会&トーク
- 11月14日(土)
○シンポジウム Part 2「カントルと各文化圏における文学・演劇」
スピーカー: 井上 暁子(熊本大学准教授/ドイツ・ポーランド国境地帯の文学、移民文学研究)、加藤 有子(名古屋外国語大学准教授/ポーランド文学、表象文化論研究)、伊藤 倫(日本学術振興会/ロシア演劇史研究)、福田 桃子(日本学術振興会/フランス小説、演劇研究)、丹羽 良徳、加須屋 明子

Installation designed by Jumpei Matsushima and constructed by Seido Ikeda and Tomoshi Yasuda. Curated by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA and Akiko Kasuya (Professor of General Science of Art, Kyoto City University of Arts). Organized by Kyoto City University of Arts and co-organized by Polish Institute Tokyo, Culture.pl, and Kyoto Art Center, with additional funding from the Japanese Agency for Cultural Affairs, Pola Art Foundation, Asahi Group Art Foundation, the Kao Foundation for Arts and Sciences, and the Asahi Shimbun Foundation; the cooperation of Cricoteka, Tadeusz Kantor Foundation, Foksal Gallery, Theater X, MEM, Ishibashi Production, Foksal Gallery Foundation, Kyoto Art Center, Kyoto Experiment, Terayama World, Project 21 "Dialogue with the Earth," and Tama Art University; and support from the Embassy of the Republic of Poland in Tokyo, the Japanese-Polish Society Branch in Kansai, and Forum Polska

Printed matter

Flyer and poster designed by Hisaki Matsumoto
A5-sized catalogue and archives (see p. 48)



2015.10.17 Sat , 10.18 Sun

「死の劇場——カントルへのオマージュ」展 関連イベント
石橋義正 新作舞台公演 『ZERO ZONE』
人工知能は陸橋で積み木をつむデスカ



写真 | 田中 マサアキ Photos by Masaaki Tanaka

会場 | 京都芸術センター 講堂
開催日数 | 2日間
入場者数 | 314人
企画 | 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
有限会社 石橋プロダクション
主催 | 京都市立芸術大学
有限会社 石橋プロダクション
共催 | ポーランド広報文化センター
Culture.pl
京都芸術センター
助成 | 平成27年度文化庁「優れた現代美術の海外発信促進事業」
公益財団法人 ポーラ美術振興財団
公益財団法人 アサヒグループ芸術文化財団
公益財団法人 花王芸術・科学財団
公益財団法人 朝日新聞文化財団

協力 | クリコテカ
タデウシュ・カントル財団
フォクサル画廊
シアターX(カイ)
MEM
フォクサル・ギャラリー財団
京都芸術センター
KYOTO EXPERIMENT
テラヤマ・ワールド
〈地球との対話〉プロジェクト21
多摩美術大学
後援 | 駐日ポーランド共和国大使館
日本ポーランド協会関西センター
NPO法人 フォーラム・ポーランド組織委員会
印刷物 | フライヤー デザイン: 松本 久木

Venue: Kyoto Art Center, Auditorium

Planned by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA and Ishibashi Production. Organized by Kyoto City University of Arts and Ishibashi Production, and co-organized by Polish Institute Tokyo, Culture.pl, and Kyoto Art Center, with additional funding from the Japanese Agency for Cultural Affairs, Pola Art Foundation, Asahi Group Art Foundation, the Kao Foundation for Arts and Sciences, and the Asahi Shimbun Foundation; the cooperation of Cricoteka, Tadeusz Kantor Foundation, Foksal Gallery, Theater X, MEM, Foksal Gallery Foundation, Kyoto Art Center, Kyoto Experiment, Terayama World, Project 21 "Dialogue with the Earth," and Tama Art University; and support from the Embassy of the Republic of Poland in Tokyo, Japanese-Polish Society Branch in Kansai, and Forum Polska

Printed matter
Flyer designed by Hisaki Matsumoto

構成・演出 | 石橋 義正
Director | Yoshimasa Ishibashi
ビジュアルデザイン | 江村 耕市
Visual design | Koichi Emura
装置制作 | 安藤 英由樹
Device production | Hideyuki Ando
照明デザイン | 藤本 隆行 / Kinsei R&D
Lighting design | Takayuki Fujimoto / Kinsei R&D

出演
— PERFORMERS —
美波(俳優)
Minami (actor)
素我蝶部・藤井 b泉(ダンサー)
B Izumi Fujii from Scarabe (dancer)
素我蝶部・宮原 由紀夫(ダンサー)
Yukio Miyahara from Scarabe (dancer)
皆川 まゆむ(ダンサー)
Mayumu Minakawa (dancer)
山中 雅博(テノール歌手)
Masahiro Yamanaka (tenor)
増田 敏子(ピアノ)
Toshiko Masuda (piano)
天根 静也(僧侶)
Shizuya Amane (monk)

アスリートが競技中に、極限的な精神状態に入ることを「ゾーン」と呼ぶ。常人には到底到達できないであろう、この心と体が完全に調和した「空」の境地に導くべく、ナビゲーター(僧侶)に誘導され、観客が座禅を組むところから本公演は始まる。そして10分後、いきなり爆音が空間を包み、ダイヤモンド型のオブジェが激しく光り出す。その中から粘着力のある物質にまみれた男女のダンサーが現れ、物質を撒き散らしながら観客席を通過してステージへと上がっていく。愛を暴力でしか確かめられない男女、業に囚われ思い通りにならない怒りを歌にして吐き出す傲慢な中年男、己にまとりつく業を一杯必死に破り脱ぎすてようとする若い女性、昔の恋人だったらしき男の人形を愛し続け呪い続ける狂女、星空に憧れを持ち、陸橋の上で積み木を積み続けては破壊する人工知能。様々な苦悩を抱えた人物たちが連鎖的に登場し、自我から抜け出せずに苦しむ姿があらわに描かれていく。やがて紙吹雪の舞う中、登場人物らが陸橋の上で踊り始めたかと思うと暗転し、冒頭に座禅のインストラクションを行った僧侶が現れ、また観客は座禅を組むことになる。今しがた目にした、煩悩の数々を忘れると言わんばかりに。



関連イベント

10月12日(月・祝)
○タデウシュ・カントル関連作家上映会「オー!マイキー」スペシャル・エディション 上映&トーク
会場: 京都芸術センター
スピーカー: 石橋 義正(監督)、橋本 裕介(KYOTO EXPERIMENT プログラムディレクター)



写真 | 高橋 耕平 Photos by Kohei Takahashi

写真 | 守屋 友樹 Photo by Yuki Moriya

申請展
KCUA Open Call Exhibition

外部連携事業
Collaborative Project

2015.11.21 Sat - 12.6 Sun

岡崎和郎 / 大西伸明 Born Twice

出展作家 | ARTISTS
岡崎 和郎
Kazuo Okazaki
大西 伸明
Nobuaki Onishi

展示室 | @KCUA 1
開催日数 | 14日間
入場者数 | 1,221人
企画 | 加治屋 健司(京都市立芸術大学芸術資源研究センター准教授)
主催 | 京都市立芸術大学
協力 | 伊藤 謙介
MA2ギャラリー
高橋 耕平
日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴ
林田 新
横田茂ギャラリー
印刷物 | フライヤー、ポスター デザイン: オープラス
カタログ作成中

関連イベント
11月21日(土)
○オープニングレセプション

Curated by Kenji Kajiya (Associate Professor, Kyoto City University of Arts Archival Research Center).
Organized by Kyoto City University of Arts with the cooperation of Arata Hayashida, Kensuke Ito, MA2 Gallery, Oral History Archives of Japanese Art, Shigeru Yokota Gallery, and Kohei Takahashi

Printed matter
Flyer and poster designed by OPLUS
Catalogue in the making

岡崎和郎(1930-)は、従来のオブジェ思想で見落とされたものを捕うという「御物補遺」の思想を1963年に確立し、多様な素材と方法で数多くのオブジェを制作して、戦後日本美術の歴史で重要な位置を占めてきた。大西伸明(1972-)は、版画技法を出発点として、大小様々な日常の物体を樹脂によって型取りして彩色し複製する作品で知られる。40歳以上年の離れた二人は、オブジェに対する関心や、型取り、マルチプル、複製・再生産といった問題を共有しつつ、その制作方法を大きく異にする。副題の Born Twice は、「2回生まれること」、つまり一度作りだされたモノが、再びオブジェとして生まれることを指す。そこには芸術の創造性にある再生の力が働いている。また作品の展示に加えて、時代とともに新しい解釈を生み出す「資源としての芸術」という視点から二人の作品を捉えるため、二人のオーラル・ヒストリーの映像を上映した。



2015.11.21 Sat - 12.6 Sun

大学美術館を活用した美術工芸分野新人アーティスト育成プロジェクト 谷穹個展「器(うつろ)」

出展作家 | ARTIST
谷 穹
Tani-Q

展示室 | @KCUA 2
開催日数 | 14日間
入場者数 | 1,221人
企画 | 京都工芸繊維大学美術工芸資料館
京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
主催 | 文化庁 京都工芸繊維大学 京都工芸繊維大学美術工芸資料館 京都市立芸術大学
協力 | 京都造形芸術大学 ARTZONE
印刷物 | フライヤー デザイン: 本田 コウイチ
A5判カタログ 編集・発行: 京都工芸繊維大学美術工芸資料館

Curated by Kyoto Institute of Technology Museum and Archives and Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA. Organized by the Japanese Agency for Cultural Affairs, Kyoto Institute of Technology, Kyoto Institute of Technology Museum and Archives, and Kyoto City University of Arts with the cooperation of ARTZONE, Kyoto University of Art and Design

Printed matter
Flyer designed by Koichi Honda
A5-sized catalogue edited and published by Kyoto Institute of Technology Museum and Archives

本展は、京都工芸繊維大学美術工芸資料館が若手作家の成長支援を目的に実施している『未来の途中』プロジェクトの一環として開催された。育成対象者から@KCUAでの展覧会プランを公募し、採択された信楽在住の陶芸家、谷穹(たに きゆう)の個展を実施した。谷は窯元の生まれではあるが、まず「やきもの」ではなく「彫刻」を学び、「もの」が存在する空間をも意識して立体造形を行ってきた。「やきもの」に取り組み始めてからは、

室町時代に信楽で作られていた「古信楽」を再び作り出し、室町時代の人々の美意識と遊び心を現代的な視点から捉え返すことを目指している。本展において谷は、空間を設え、その中に甕を一点据えた。「古信楽」が纏う空気のようなものを作りたいのだと語る彼が、これまで成し遂げてきた「古信楽」に関する技術や思考の一步先にある表現をさらに追求していこうとする強い意志がそこには現れていた。

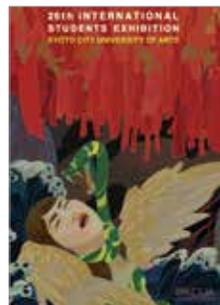


関連イベント
8月16日(日)
○[大学美術館を活用した美術工芸分野新人アーティスト育成プロジェクト] 公開プレゼンテーション
会場: Gallery C
プレゼンテーション実施作家: 門田 訓和、嶋 春香、高野 友実、谷 穹、前谷 開、吉田 奈々
選考委員: 平芳 幸浩(京都工芸繊維大学美術工芸資料館准教授)、藤田 瑞穂(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA学芸員)、三宅 砂織(美術作家)
11月21日(土)
○アーティストトーク ゲスト: 中ハシ 克シゲ(京都市立芸術大学美術学部彫刻専攻教授)
○オープニングレセプション

- ミリヤム・アララシ
Mirjam Ala-Rachi
- チャールズ F. アントワン
Charles F. Antoine
- 于 楊(ウ ヨウ)
Yu Yang
- 呉 在現(オ ジェヒョン)
Oh Jaehyun
- 王 馨妍(オウ ケイケン)
Ou Kei Ken
- 王 杰(オウ ケツ)
Wang Jie
- 王 中孚(オウ チュウフ)
Wang Zhong Fu
- 金 昇賢(キム スンヒョン)
Kim Seung Hyun
- 朱 勇進(ジュ ヨンジン)
Joo Yong Jin
- 徐 子倚(ジョ シイ)
Xu Zi Yi
- 申 セミ(シン セミ)
Shin Sai Mi
- ジョセフ・スキアノ・ディ・ロンボ
Joseph Schiano di Lombo
- 扎西 才讓(タシ ツェラン)
Zhaxi Cairang
- 崔 多情(チェ ダジョン)
Choi Dajung
- 唐 穎倩(トウ エイセイ)
Tang Ying Qian
- 馬 潤芝(バ ジュンシ)
Ba Junshi
- カリマ・ハサン
Karimah Hassan
- ブランディン・ハモン
Blandine Hamon
- アドリアン・ブルエ
Adrien Blouët
- 白 旻智(ベク ミンジ)
Baek Minji
- タラ・マキナーニー
Tara McInerney
- ニンニ・マクリン
Ninni Mäklin
- 柳 在昊(ユ ジェホ)
Yoo Jae Ho
- 陸 瑋妮(ル ウエイ ニ)
Lu Wei Ni
- マティアス・レオナルド
Mathias Leonard



写真 | 大島 拓也 Photos by Takuya Oshima



2015.12.10 Thu - 12.20 Sun

京都市立芸術大学 第26回 留学生展

展示室 | @KCUA 1
開催日数 | 10日間
入場者数 | 585人
主催 | 京都市立芸術大学
印刷物 | ポストカード デザイン: 馬 潤芝

Organized by Kyoto City University of Arts

Printed matter
Postcard designed by Ba Junshi

本学では、留学生の受入環境の整備や支援の充実を図るとともに、京都の文化芸術に親しむ機会の提供、更には市民との交流機会の拡大の取組みを進めている。本展は、本学に在籍する世界各国からの留学生のうち、修士課程の本科留学生、研究留学生、交換留学生による毎年恒例の展覧会である。第26回となる今回はアメリカ、イギリス、韓国、台湾、中国、ドイツ、フィンランド、フランスから25名が出展した。

関連イベント

- 12月10日(木)
- ギャラリートーク
- オープニングレセプション兼留学生交流パーティー



写真 | 大島 拓也 Photos by Takuya Oshima

2015.12.10 Thu - 12.25 Fri

伊藤早樹子「カメのしじみ」

伊藤 早樹子
Sakiko Ito

展示室 | @KCUA 2
開催日数 | 14日間
入場者数 | 675人
主催 | 京都市立芸術大学
印刷物 | フライヤー デザイン: 仲村 健太郎

Organized by Kyoto City University of Arts

Printed matter
Flyer designed by Kentaro Nakamura



2014年、青森での個展のリサーチをしていた伊藤は、八百屋に並んでいたメロンに目が止まり、その「重量」を強烈に感じて惹きつけられるという体験をする。それは、大学院進学のために京都に来てからずっと浮遊しているかのような状態にあった伊藤の身体に「着地点」が与えられた瞬間であった。そして青森県立美術館・八角堂にて、このことに着想を得た作品を発表した。やがて展覧会の撤出時、そこに現れた一匹のカメに縁を感じた彼女は、京都の自宅へと連れ帰る。以後、伊藤とカメの「しじみ」は非常に身近な存在として同居生活を続けている。本展では、具体的な意思疎通の手段がない中で、曖昧なままに蓄積されていく「しじみ」の日常に関する記録資料や、彼女との「対話距離」から着想した作品を用いたインスタレーションが展開された。

出展作家 | ARTISTS

- パヴェウ・アルトハメル
Paweł Althamer
- アルトゥル・ジミェフスキ
Artur Żmijewski
- オル太
OLTA
- 西山 裕希子
Yukiko Nishiyama
- 丹羽 良徳
Yoshinori Niwa
- 増本 泰斗
Yasuto Masumoto
- 松田 壯統
Masanori Matsuda
- 水無瀬 翔
Sho Minase



写真 | 来田 猛 Photos by Takeru Koroda



2016.1.9 Sat - 2.7 Sun

ARTIST WORKSHOP @KCUA by Paweł Althamer & Artur Żmijewski House of Day, House of Night (昼の家、夜の家) 成果発表展

- 展示室 | @KCUA 1
- 開催日数 | 26日間
- 入場者数 | 1,300人
- 企画 | 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
- 主催 | 文化庁(平成27年度「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」)
京都市立芸術大学
- 共催 | 公益財団法人 京都市芸術文化協会(京都芸術センター)
ポーランド広報文化センター
- 協力 | Culture.pl
- 印刷物 | フライヤー、ポスター デザイン: 松本 久木
A5判報告書、たねまきアクア01(49ページ参照)

Curated by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA. Organized by the Japanese Agency for Cultural Affairs and Kyoto City University of Arts and co-organized by the Kyoto Arts and Culture Foundation (Kyoto Art Center) and Polish Institute Tokyo with the cooperation of Culture.pl

Printed matter

Flyer and poster designed by Hisaki Matsumoto
A5-sized book and Tanemaki Akcua 01 (see p. 49)



関連イベント

2015年7月6日(月) - 7月18日(土)

○ARTIST WORKSHOP @KCUA by Paweł Althamer & Artur Żmijewski: House of Day, House of Night(昼の家、夜の家)

1月9日(土)

○真のアカデミー・開校式(兼オープニングレセプション)

1月16日(土)

○スタンディング・トーク《アートワールド meets オルタナティブ》

1月10日(日)

○オル太「パンの磔」

1月24日(日)

○スタンディング・トーク《宿と芸術と終わらないチェス》
ゲスト: 矢津 吉隆、はが みちこ

1月16日(土)

○水無瀬 翔「呼吸の瞑想法」

1月30日(土)

○スタンディング・トーク《「音楽について」》
ゲスト: ミヤギ フトシ
ホスト: 吉濱 翔

1月17日(日) 14:00

○松田 壯統「昼と夜のあいだの部屋」

1月30日(土)

○丹羽 良徳「88の提案の実現に向けて」

1月31日(日)

○山本 佳奈子×加須屋 明子「アジアの実験音楽×ポーランドの芸術=ユーラシア?」
ゲスト: 山本 佳奈子(Offshore)、加須屋 明子(京都市立芸術大学美術学部教授)
聞き手: 吉濱 翔

1月9日(土)-2月7日(日)の毎週土曜・日曜(不定休)

○増本 泰斗 featuring 吉濱 翔 [bar spiritual fitness]

京都市立芸術大学では、平成25年より文化庁委託事業「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」として、「アーティストの招聘による多角的なワークショップなどを通じた新進芸術家育成事業」を実施してきた。本年度に実施する三つのワークショップのうち、ポーランドよりパヴェウ・アルトハメルとアルトゥル・ジミェフスキ(ともに美術作家/映像・パフォーマンス・インスタレーション)を講師に迎えた「House of Day, House of Night(昼の家、夜の家)」(2015年7月開催)では、ヨーロッパと日本の伝統芸術を

巡る、言葉によらない対話をテーマとした10日間のセッションが行われた。それは、その場にいた誰もが、芸術だけではなく、自然、歴史、社会、モラルなどさまざまな問題について、根底から考えさせられるようなものであった。成果発表展となる本展では、ワークショップを題材にした、アルトハメルとジミェフスキの共作による新作映像作品を展示すると同時に、参加者たちによる成果発表として、作品の展示ならびに「真のアカデミー」の名の下に新しい教育機関のあり方を模索する実験を行った。



写真 | 来田 猛 Photos by Takeru Koroda

2016.1.16 Sat - 2.7 Sun

ARTIST WORKSHOP @KCUA by Nelly Saunier Feather 成果発表展

展示室	@KCUA 2
開催日数	20日間
入場者数	995人
企画	京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
主催	文化庁(平成27年度「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」) 京都市立芸術大学
共催	公益財団法人 京都市芸術文化協会(京都芸術センター) ヴィラ九条山
協力	天王寺動物園
印刷物	フライヤー、ポスター デザイン: 石松 愛 B5判報告書、たねまきアクア01(49ページ参照)

Curated by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA. Organized by the Japanese Agency for Cultural Affairs and Kyoto City University of Arts, and co-organized by the Kyoto Arts and Culture Foundation (Kyoto Art Center) and Villa Kujoyama, with the cooperation of Tennoji Zoo

Printed matter

Flyer designed by Ai Ishimatsu
B5-sized book and Tanemaki Akcu01 (see p. 49)

- 出展作家 | ARTISTS
- ネリー・ソニエ
Nelly Saunier
 - 安藤 隆一郎
Ryuichiro Ando
 - 石塚 源太
Genta Ishizuka
 - 河野 愛
Ai Kawano
 - 藤井 桃子
Momoko Fujii
 - 道廣 明日香
Asuka Michihiro
 - むらた ちひろ
Chihiro Murata



春に実施したワークショップでは、公募により育成対象者として選出された染織、漆、藁細工などの工芸作家と工芸的な要素を取り入れて制作する現代美術作家の6名が、講師のネリー・ソニエより羽根細工の基本技術、その歴史やこれまでの作品などを集中して学んだ。講師とのメールでの講評やアドバイスを経て制作されたそれぞれの作品は、中間発表としてヴィラ九条山の主催により尾道市立美術館にて10月に開催のグループ展「オノミチ・ランデブー」にて、ネリー・ソニエ氏の作品と共に出品された。本事業が羽根細工というひとつの技術の習得を目指しているのではなく、工芸という分野で世界的に活躍している講師の制作に対する姿勢や考え方から広く学び、それらを自らの制作に活かすことを目的とすることから、最終成果発表となる本展では、羽根細工による作品だけではなく、ワークショップで獲得した経験を咀嚼した上で、各育成対象者が本来専門とする技術を用いた作品も発表した。

関連イベント

4月20日(月) - 4月25日(土)

○ARTIST WORKSHOP @KCUA by Nelly Saunier: Feather

4月22日(水)

○「継承と伝達——生成的未來知にむけて」@KCUAでのセミナー

- ・レクチャー 1 研究対象としての職人仕事
講師: フランソワ・アザンブール (デザイナー)
- ・レクチャー 2 Nelly Saunier on her works
講師: ネリー・ソニエ
- ・ディスカッション

登壇者: 鷲田 清一 (哲学者/京都市立芸術大学理事長・学長)、フランソワ・アザンブール、ネリー・ソニエ

○懇親会

企画・主催: ヴィラ九条山 共催: 京都市立芸術大学、京都国際現代芸術祭組織委員会 助成: 文化庁



写真 | 来田 猛 Photos by Takeru Koroda

出展作家 | ARTIST

ガイド・ヴァン・デル・ウェルヴェ
Guido van der Werve

2016.2.20 Sat - 3.21 Mon

ガイド・ヴァン・デル・ウェルヴェ 「killing time | 無為の境地」

- 展示室 | @KCUA 1, 2, Gallery B, C
- 開催日数 | 26日間
- 入場者数 | 1,853人
- 企画 | 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
- 主催 | 文化庁(平成27年度「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」)
京都市立芸術大学
- 共催 | 公益財団法人 京都市芸術文化協会(京都芸術センター)
- 助成 | モンドリアン財団、オランダ大使館
- 印刷物 | フライヤー デザイン: 立花 文穂
たねまきアクア01(49ページ参照)

Curated by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA. Organized by the Japanese Agency for Cultural Affairs and Kyoto City University of Arts and co-organized by the Kyoto Arts and Culture Foundation (Kyoto Art Center) with additional funding from the Mondriaan Fund and the Embassy of the Kingdom of the Netherlands in Japan

Printed matter

Flyer designed by Fumio Tachibana
Tanemaki Akcua 01 (see p. 49)

関連イベント

2月15日(月)-2月21日(日)
○ARTIST WORKSHOP @KCUA by Guido van der Werve

2月21日(日)
○アーティストトーク
○オープニングレセプション



新進気鋭のオランダ人作家ガイド・ヴァン・デル・ウェルヴェは、海外の美術館での大規模な個展や国際展へ数多く出展するなど、今もっとも注目を集めているアーティストの一人である。日本初個展となる本展では、最新作を含む全7作品を展示した。ヴァン・デル・ウェルヴェは2000年からパフォーマンスの記録を基にした映像作品を制作している。幼少期からクラシック音楽の教育を受けたヴァン・デル・ウェルヴェは、作品に使用する楽曲も自身で作曲しており、音楽のように直感的に伝わる視覚芸術を理想としている。

過去10年間の作品群を回顧的に展示することで、ヴァン・デル・ウェルヴェの領域横断的な作品に通底する主題と創作への動機を相互関係を解き明かし、作家の制作に対する真摯な姿勢と卓越した才能を明示することを目的とした本展は、オランダ現代美術の最前線表現を紹介する貴重な機会となった。



写真 | 来田 猛 Photos by Takeru Koroda

出展作家 | ARTIST

奥村 雄樹
Yuki Okumura

2016.2.20 Sat - 3.21 Mon

奥村雄樹「な」

展示室 | Gallery A
 開催日数 | 26日間
 入場者数 | 1,853人
 企画 | 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
 主催 | 京都市立芸術大学
 協力 | MISAKO & ROSEN
 印刷物 | フライヤー デザイン: 立花 文穂

Curated by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA and organized by Kyoto City University of Arts with the cooperation of Misako & Rosen

Printed matter

Flyer designed by Fumio Tachibana

関連イベント

2月21日(日)
○オープニングレセプション

2月23日(火)
○第12回アーカイブ研究会「不完全なアーカイブは未来のプロジェクトを準備する」
講師: 奥村 雄樹
主催: 京都市立芸術大学芸術資源研究センター



ベルギーのブリュッセルとオランダのマーストリヒトを拠点として作品制作を行う傍ら、翻訳家としても活躍する奥村雄樹は、「私」の不確実性や作者性をテーマとしながら、他者との協働や美術史への言及性が高いコンセプチュアルな作品を制作してきた。本展では、河原温との会遇に着想を得た新作サウンドインスタレーションが発表された。奥村は2012年に東京国立近代美術館で開催された「14の夕べ」での「河原温の純粹意識 あるいは多世界(と)解釈」をはじめ、河原温の仕事をめぐる作品を発表してきた。その延長線上に捉えることができる本展出品作品は、河原温が「河名温」として登場する宮内勝典の小説『グリニッジの光りを離れて』を原作としており、60年代後半のニューヨークの空気感、河原の作品が内包する宇宙的な時間の拡がりや名前とアイデンティティをめぐる問題、奥村の自伝的な要素などの重層的な題材が、作品に通底する精緻なコンセプトに支えられることにより、高い同時代性をもった表現となっていた。

2015.3.7 Sat - 5.10 Sun

京都市立芸術大学移転プレ事業／PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015
特別連携プログラム／京芸 Transmit Program #6 still moving

In advance of KCUA's relocation/Parasophia: Kyoto International Festival of Contemporary Culture 2015
Satellite Program/KCUA Transmit Program #6 Still Moving

会場	元崇仁小学校、崇仁地域周辺
開催日数	2015年度：23日間(4月1日-5月10日) 会期通算：44日間(3月7日-5月10日)
入場者数	2015年度：2,804人(4月1日-5月10日) 会期通算：4,016人(3月7日-5月10日)
企画	京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
主催	京都市 京都市立芸術大学
共催	京都国際現代芸術祭組織委員会 京都芸術センター 京都文化芸術コア・ネットワーク
助成	平成26年度文化庁「優れた現代美術の海外発信促進事業」 公益財団法人 野村財団
協力	東山アーティスト・プレイスメント・サービス(HAPS)
協賛	株式会社 資生堂 ターナー色彩 株式会社

Venues: Former Suujin Elementary School and locations in or near the Suujin area

Curated by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA. Organized by Kyoto City and Kyoto City University of Arts and co-organized by Parasophia Office, Kyoto Art Center, and Kyoto Arts Core Network, with additional funding from the Japanese Agency for Cultural Affairs and Nomura Foundation, the cooperation of the Higashiyama Artists Placement Service (HAPS), and the sponsorship of Shiseido and Turner Colour Works Ltd.

出 展 作 家 A R T I S T S	石原友明 崇仁ゼミ KCUA Tomoaki Ishihara Suujin Lab.
	井上 明彦 + 二瓶 晃 Akihiko Inoue and Akira Nihei
	小山田 徹 Toru Koyamada
	かげうつし展実行委員会(林田 新、小田原 のどか、高橋 耕平、水木 壘) Kageutsushi Exhibition Organizing Committee (Arata Hayashida, Rui Mizuki, Nodoka Odawara, Kohei Takahashi)
	杉山 雅之 Masayuki Sugiyama
	高橋 悟 Satoru Takahashi
	田中 和人 + 増本 泰斗 Kazuhito Tanaka and Yasuto Masumoto
	谷中 佑輔 Yusuke Taninaka
	久門 剛史 Tsuyoshi Hisakado
	ヘフナー/ザックス Hoefner/Sachs
RAD - Research for Architectural Domain RAD - Research for Architectural Domain	

2015.3.7 Sat - 5.10 Sun

still moving @KCUA

Still Moving @KCUA

出 展 作 家 A R T I S T S	青木 陵子 + 伊藤 存 Ryoko Aoki and Zon Ito	展示室	@KCUA 1
	伊東 宣明 Nobuaki Itoh	開催日数	2015年度：35日間(4月1日-5月10日) 会期通算：56日間(3月7日-5月10日)
	金氏 徹平 Teppei Kaneuji	入場者数	2015年度：2,408人(4月1日-5月10日) 会期通算：3,760人(3月7日-5月10日)
	清田 泰寛 Yasuhiro Kiyota	企画	京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
	田中 和人 Kazuhito Tanaka	主催	京都市 京都市立芸術大学
	唐仁原 希 Nozomi Tojinbara	共催	京都国際現代芸術祭組織委員会 京都芸術センター 京都文化芸術コア・ネットワーク
	花岡 伸宏 Nobuhiro Hanaoka	助成	平成26年度文化庁「優れた現代美術の海外発信促進事業」 公益財団法人 野村財団
	水田 寛 Hiroshi Mizuta	協力	東山アーティスト・プレイスメント・サービス(HAPS)
	森下 明音 Akane Morishita	協賛	株式会社 資生堂 ターナー色彩 株式会社
	山本 麻紀子 Makiko Yamamoto		

Curated by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA. Organized by Kyoto City and Kyoto City University of Arts and co-organized by Parasophia Office, Kyoto Art Center, and Kyoto Arts Core Network, with additional funding from the Japanese Agency for Cultural Affairs and Nomura Foundation, the cooperation of the Higashiyama Artists Placement Service (HAPS), and the sponsorship of Shiseido and Turner Colour Works Ltd.

2015.3.7 Sat - 5.10 Sun

京都市立芸術大学 退任記念展 建島哲 [POETRY/ART]

Kyoto City University of Arts Retirement Exhibition Akira Tatehata: Poetry/Art

出 展 作 家 A R T I S T	建島 哲 Akira Tatehata	展示室	@KCUA 1
		開催日数	2015年度：35日間(4月1日-5月10日) 会期通算：56日間(3月7日-5月10日)
		入場者数	2015年度：2,408人(4月1日-5月10日) 会期通算：3,760人(3月7日-5月10日)
		主催	京都市立芸術大学

Organized by Kyoto City University of Arts

イベント他
Events, etc.

2015.10.3 Sat, 10.4 Sun

ニュー・ブランシュKYOTO 2015 @KCUA

展覧会概要は20ページ参照
See exhibition details on p. 21

2015.10.3 Sat 20:00-21:30

Andrea Crews×N.O.B a.k.a. COCOSPIN×metomeによるファッション・パフォーマンス Fashion performance by Andrea Crews, N.O.B a.k.a. COCOSPIN, and Metome

会場 | @KCUA 1
入場者数 | 405人(ライブパフォーマンス「ウツル」を含む)
協力 | ESMOD OSAKA

Presented with the cooperation of Esmod Osaka

出演 | PERFORMERS
N.O.B a.k.a. COCOSPIN
N.O.B a.k.a. COCOSPIN
metome (Takahiro Uchibori)
Metome (Takahiro Uchibori)
マルシア・レベック(アンドレア・クルーズ)
Maroussia Rebecq (Andrea Crews)

パリのクリエイターチーム「アンドレア・クルーズ」は、アートとファッションの双方の領域を
行き来するユニット。着物を使ったアップサイクルで出来上がった洋服を用いたパフォーマンスに、生粋のライムメーカーN.O.B a.k.a.
COCOSPINとトラックメーカーmetomeがスペシャルコラボレートしたイベントを実施。



写真 | 大島 拓也 Photos by Takuya Oshima



2015.10.3 Sat 21:30-22:00

ライブパフォーマンス「ウツル」

Live performance: Utsuru

会場 | @KCUA 1

出演 | PERFORMERS
仙石 彬人
Akito Sengoku
藤田 陽介
Yosuke Fujita
大歳 芽里
Meri Otoshi

OHPを用いたヴィジュアルによるライブパフォーマンス「TIME PAINTING」の仙石彬人、自作楽器「11's Moon Organ」を操る音楽家の藤田陽介、そして様々なジャンルのアーティストとの共演を重ねるダンサーの大歳芽里によるスペシャル・ライブパフォーマンス。



2015.10.4 Sun 17:00-19:00

シンポジウム：新しい時代のファッション

Symposium: Fashion in the new era

パネリスト | 西尾 美也(美術家/FORM ON WORDS)
マルシア・レベック(アンドレア・クルーズ)
Panelists | Yoshinari Nishio (artist/Form on Words), Maroussia Rebecq (Andrea Crews)
コメンテーター | 鷲田 清一(哲学者/京都市立芸術大学学長)
Commentator | Kiyokazu Washida (philosopher/President, Kyoto City University of Arts)

会場 | @KCUA 1
入場者数 | 37人



写真 | 飯川 雄大 Photos by Takehiro Iikawa

2016.1.23 Sat 10:00-16:00

親子ふれあいアート教室 親子で伝書鳩を飛ばそう!

講師 | 山本 麻紀子(京都市立芸術大学美術学部構想設計専攻非常勤講師)
Instructor | Makiko Yamamoto (Part-time Lecturer of Concept and Media Planning, Kyoto City University of Arts)

スペシャルゲスト | ヒスロム
Special guest | hyslom

会場 | 元崇仁小学校
開催日数 | 14日間
入場者数 | 951人
主催 | 京都市下京区ふれあい事業実行委員会なかまづくり部会
京都市下京区役所
共催 | 京都市立芸術大学
京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
京都市教育委員会生涯学習部
印刷物 | フライヤー デザイン:三重野 龍
たねまきアクア02(2016年度発行)

Venue: Former Suujin Elementary School

Organized by Kyoto-shi Shimogyo-ku Fureai Jigyō Jikkō linkai Nakamadzukuri Bukai and Kyoto City Shimogyo Ward, and co-organized by Kyoto City University of Arts, Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA, and Kyoto City Board of Education Lifetime Learning Department

Printed matter
Flyer designed by Ryu Mieno
Tanemaki Akua 02 (published in 2016-2017)



2016.3.27 Sun 13:00-15:00

京都市立芸術大学移転整備プレ事業 未来へのパーティ 崇仁のまちと、引っ越し中 (still moving) の新たな住民〈京都市立芸術大学〉

モデレーター | 鷲田 清一(哲学者/京都市立芸術大学学長)
Moderator | Kiyokazu Washida (philosopher/President, Kyoto City University of Arts)

会場 | 元崇仁小学校
主催 | 京都市立芸術大学

Venue: Former Suujin Elementary School

Organized by Kyoto City University of Arts

本学がこれまでに崇仁地域で行ってきた取り組みの報告会を兼ねて、これからの崇仁のまちづくりへの意見交換会を実施した。鷲田清一学長を交えて、未来の崇仁のまちを思い描きながらの座談会となった。





写真 | 大島 拓也 Photo by Takuya Oshima

2015.12.10 Thu - 12.25 Fri

学内特別研究助成対象事業 奥行きを感じる展

会場 | 堀川御池ギャラリー (Gallery A)
 開催日数 | 14日間
 入場者数 | 675人
 主催 | 京都市立芸術大学
 印刷物 | フライヤー デザイン: 淀 裕矢

Organized by Kyoto City University of Arts

Printed matter
 Flyer designed by Yuya Yodo

京都市立芸術大学の各専門領域を横断しながら授業を行う「テーマ演習」の一つとして2012年度より行われている「奥行きを感じる」では、彫刻専攻、陶磁器専攻、日本画専攻、芸術学専攻、宇宙物理学研究室の各教員と様々な専攻の学生が参加して、「奥行きを感じる」を古今東西のあらゆる芸術表現を紐解くためのキーワードとして研究を進めている。図像学や社会文化史、精神史等を基盤とする作品評価とは異なり、「造形」に由来する奥行きを手掛かりに実制作者の視点から表現を読み解き、新たな解釈やさらなる展開の可能性を見つけ出そうとする試みである。今回の展示では、2014年度から今年度に行った研究の成果を、その過程で生み出された考察を交えて紹介した。



写真 | 草木 貴照 Photo by Takateru Kusaki

2016.3.26 Sat - 4.3 Sun

京都市立芸術大学移転支援事業 京都芸大同窓会アートフェア2016

展示室 | @KCUA 1, 2, Gallery A, B, C
 開催日数 | 2015年度: 5日間(3月26日-3月31日) 会期通算: 8日間(3月26日-4月3日)
 入場者数 | 2015年度: 1,409人(3月26日-3月31日) 会期通算: 2,088人(3月26日-4月3日)
 主催 | 京都市立芸術大学美術学部同窓会象の会
 後援 | 京都市
 京都市教育委員会
 京都商工会議所
 京都新聞
 KBS京都
 京都銀行
 公益財団法人 京都市芸術文化協会
 公益社団法人 京都デザイン協会
 京都市立芸術大学

協賛 | 染・清流館
 ジーク 株式会社
 協力 | 京都市立芸術大学音楽学部同窓会真声会
 印刷物 | フライヤー デザイン: 古川 加津夫
 A4判報告書 編集・発行: 京都芸大同窓会アートフェア2016実行委員会
 発行日: 2016年6月26日

関連イベント

- 3月11日(金) - 3月13日(日)
 ○京都芸大同窓会アートフェア2016 プレ展示
 会場: 京都芸術センター
- 3月26日(土)
 ○オープングレセプション
- 3月26日(土) - 4月3日(日)
 ○京都市立芸術大学音楽学部同窓会真声会会員によるリレーコンサート

Organized by the Alumni Association of Kyoto City University of Arts (Faculty of Fine Arts) with the cooperation of the Alumni Association of Kyoto City University of Arts (Faculty of Music), the sponsorship of Somé Seiryu-kan and ZYCC Corporation, and the support of Kyoto City, Kyoto City Board of Education, Kyoto Chamber of Commerce and Industry, Kyoto Shimbun, KBS Kyoto, Bank of Kyoto, Kyoto Arts and Culture Foundation, Kyoto Design Association, and Kyoto City University of Arts

Printed matter
 Flyer designed by Kazuo Furukawa
 A4-sized report edited and published by the KCUA Alumni Association Art Fair 2016 Executive Committee on June 26, 2016



京都市立芸術大学美術学部同窓会象の会が、2023年に予定された本学の移転を全面的に支援するため、売上金を大学に寄付することを目的としたオークションを開催した。美術学部同窓生246名の協力により317点の作品が出品された。

刊行物

書籍
Book



月が水面にゆれるとき among those intangible...
Moonlight reflected on the water's surface among those intangible...

判型 B5変形
寸法 25.9 × 21.5 × 0.8 cm
カラー フルカラー
ページ数 64 pp.
編集 藤田 瑞穂
編集協力 西谷 枝里子(リレーリレー)
装丁・組版 松本 久木
発行者 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
発行日 2017年4月30日
収録内容 展示風景写真、作品図版、会場マップ、京都市立芸術大学卒業生アンケート、イベントの記録、藤田瑞穂「水底に降り積もるもの」ほか
言語 日本語、英語

Edited by Mizuho Fujita with the cooperation of Eriko Nishitani (Relay Relay). Designed by Hisaki Matsumoto. Published by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA on April 30, 2017
Contents: Installation views, artwork photos, exhibition map, KCUA alumni questionnaire, etc.
Language: Japanese and English (mostly bilingual)

展覧会概要は13ページ参照
See exhibition details on p. 13

書籍
Book



東日本大震災復興支援・芸術活動支援チャリティーオークション サイレントアクア2015
Charity auction in support of disaster relief and the arts Silent @KCUA 2015

判型 B5変形
寸法 23 × 18.2 × 0.9 cm
カラー フルカラー
ページ数 122 pp.
編集 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
デザイン 仲村 健太郎
発行者 京都市立芸術大学サイレントアクア実行委員会
発行日 2015年11月20日
収録内容 実施記録、前年度寄付団体活動報告、出展作家一覧、出展作品一覧ほか
言語 日本語

Edited by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA. Designed by Kentaro Nakamura. Published by the Kyoto City University of Arts Silent @KCUA Committee on November 20, 2015
Contents: Achievements, artists, artworks, etc.
Language: Japanese

展覧会概要は19ページ参照
See exhibition details on p. 19

書籍
Book



タデウシュ・カントル生誕100周年記念事業 死の劇場——カントルへのオマージュ
Project Commemorating the 100th Anniversary of the Birth of Tadeusz Kantor Homage to Kantor - Theater of Death

判型 A5
寸法 14.8 × 21.0 × 1.1 cm
カラー フルカラー
ページ数 128 pp.
編集 加須屋 明子、南部 沙智子、藤田 瑞穂
装丁・組版 松本 久木
発行者 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
発行日 2016年3月31日
収録内容 加須屋明子「死の劇場——カントルを受け継ぐ」、作品図版、展示風景写真、石橋義正 新作舞台公演の記録、藤田瑞穂「@KCUAの挑戦——今日的「タデウシュ・カントル」」ほか
言語 日本語、英語

Edited by Akiko Kasuya, Sachiko Nambu, and Mizuho Fujita. Designed by Hisaki Matsumoto. Published by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA on March 31, 2016
Akiko Kasuya "Theater of Death: Remembering Tadeusz Kantor," artwork photos, installation views, documentation of Contents: Yoshimasa Ishibashi's performance, Mizuho Fujita "@KCUA as the experimental collective," etc.
Language: Japanese, English (mostly bilingual)

展覧会概要は21ページ参照
See exhibition details on p. 21

書籍
Book



タデウシュ・カントル生誕100周年記念事業 記録集
Project Commemorating the 100th Anniversary of the Birth of Tadeusz Kantor Archives

判型 A5
寸法 14.8 × 21.0 × 2.3 cm
カラー モノクロ
ページ数 288 pp.
編集 加須屋 明子、南部 沙智子、藤田 瑞穂
編集補助 池田 亜耶子、田川 莉那
装丁・組版 松本 久木
発行者 京都市立芸術大学
発行日 2016年7月11日
収録内容 「死の劇場——カントルへのオマージュ」シンポジウムならびにタデウシュ・カントル研究会の記録ほか
言語 日本語、ポーランド語、英語

Edited by Akiko Kasuya, Sachiko Nambu, and Mizuho Fujita with assistance from Ayako Ikeda and Rina Tagawa. Designed by Hisaki Matsumoto. Published by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA on July 11, 2016
Contents: Records of the symposium held during Homage to Kantor - Theater of Death and the Tadeusz Kantor study groups held in advance of the exhibition, etc.
Language: Japanese, Polish, and English (mostly in Japanese and Polish)

書籍
Book



ARTIST WORKSHOP @KCUA by Paweł Althamer & Artur Żmijewski House of Day, House of Night (昼の家、夜の家)
ARTIST WORKSHOP @KCUA by Paweł Althamer & Artur Żmijewski House of Day, House of Night

判型 A5
寸法 14.8 × 21.0 × 1.3 cm
カラー フルカラー
ページ数 144 pp.
編集 藤田 瑞穂
編集補助 池田 亜耶子、吉田 桃子
監修 加須屋 明子
アートディレクション 松本 久木
装丁・組版 藤田 瑞穂
発行者 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
収録内容 加須屋明子「ワークショップ「昼の家、夜の家」—葛藤を通じて得たもの、現実を動かすか—」、ワークショップと成果発表展の記録、各参加作家によるテキスト、吉田桃子「Workshop report as an observer」、[オルタ POLAND-JAPAN]、藤田瑞穂「もう一つの「対話」」ほか
言語 日本語、英語

Edited by Mizuho Fujita with assistance from Ayako Ikeda and Momoko Yoshida, under the supervision of Akiko Kasuya. Art direction by Hisaki Matsumoto. Book design and DTP by Mizuho Fujita. Published by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA on March 31, 2016
Contents: Documentation of the workshop and resulting exhibition, texts by the participating artists, "Olta: Poland-Japan," etc.
Language: Japanese and English (mostly bilingual)

展覧会概要は27ページ参照
See exhibition details on p. 27

書籍
Book



ARTIST WORKSHOP @KCUA by Nelly Saunier Feather
ARTIST WORKSHOP @KCUA by Nelly Saunier Feather

判型 B5
寸法 18.3 × 25.7 × 1.2 cm
カラー モノクロ、一部カラー
ページ数 86 pp.
編集 徳山 拓一
編集協力 吉田 桃子
装丁・組版 石松 愛、藤田 典子
発行者 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
発行日 2016年3月31日
収録内容 ワークショップの記録、成果発表展の展示風景写真、各参加作家のポートフォリオほか
言語 日本語、英語

Edited by Hirokazu Tokuyama with assistance from Momoko Yoshida. Designed by Ai Ishimatsu and Noriko Fujita. Published by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA on March 31, 2016
Contents: Documentation of the workshop, installation views from the resulting exhibition, artist portfolios, etc.
Language: Japanese and English (mostly in Japanese only)

展覧会概要は28ページ参照
See exhibition details on p. 28

広報誌
Zine



たねまきアクア01
Tanemaki Akcuwa 01

判型 B6
寸法 18.2 × 12.3 × 0.2 cm
カラー フルカラー
ページ数 24 pp.
編集 西谷 枝里子(リレーリレー)、藤田 瑞穂
デザイン 仲村 健太郎
発行者 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
発行日 2016年1月15日
収録内容 たねまきアクアは、@KCUA(アクア)とその周辺に広がる創造活動の現在形、クリエーションが立ち上がろうとしているシーンを紹介していく広報誌です(不定期発行、無料)。

- Artist Workshop @KCUA 2015
1. Deep affection for a feather—ネリー・ソニエ
 2. House of Day, House of Night—パヴェウ・アルトハメル+アルトゥル・ジメフスキ
 3. DAY 1 at Guido's studio—グイド・ヴァン・デル・ウェルヴェ
- REPORT @KCUA「月が水面にゆれるとき」
SCHEDULE @KCUA
VOICE @KCUA vol. 1—鷺田清一「作品のプレゼンテーション？」
STUDIO VISIT @KCUA vol. 1—カワイオカムラ「亀岡スタジオ」

言語 日本語

Edited by Eriko Nishitani (Relay Relay) and Mizuho Fujita. Designed by Kentaro Nakamura. Published by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA on January 15, 2016
Contents: Tanemaki Akcuwa is a free zine published by @KCUA to show the various creative activities taking place in and around the gallery.
Artist Workshop @KCUA 2015
1. Deep affection for a feather: Nelly Saunier
2. House of Day, House of Night: Paweł Althamer and Artur Żmijewski
3. Day 1 at Guido's Studio: Guido van der Werwe
Report @KCUA: Moonlight Reflected on the Water's Surface
Schedule @KCUA
Voice @KCUA vol. 1: Kiyokazu Washida "On the Presentation of Artworks"
Studio Visit @KCUA vol. 1: Kawai + Okamura "Studio in Kameoka"
Language: Japanese

単位 : mm
Scale : mm

コンパネ 耐荷重40 kg

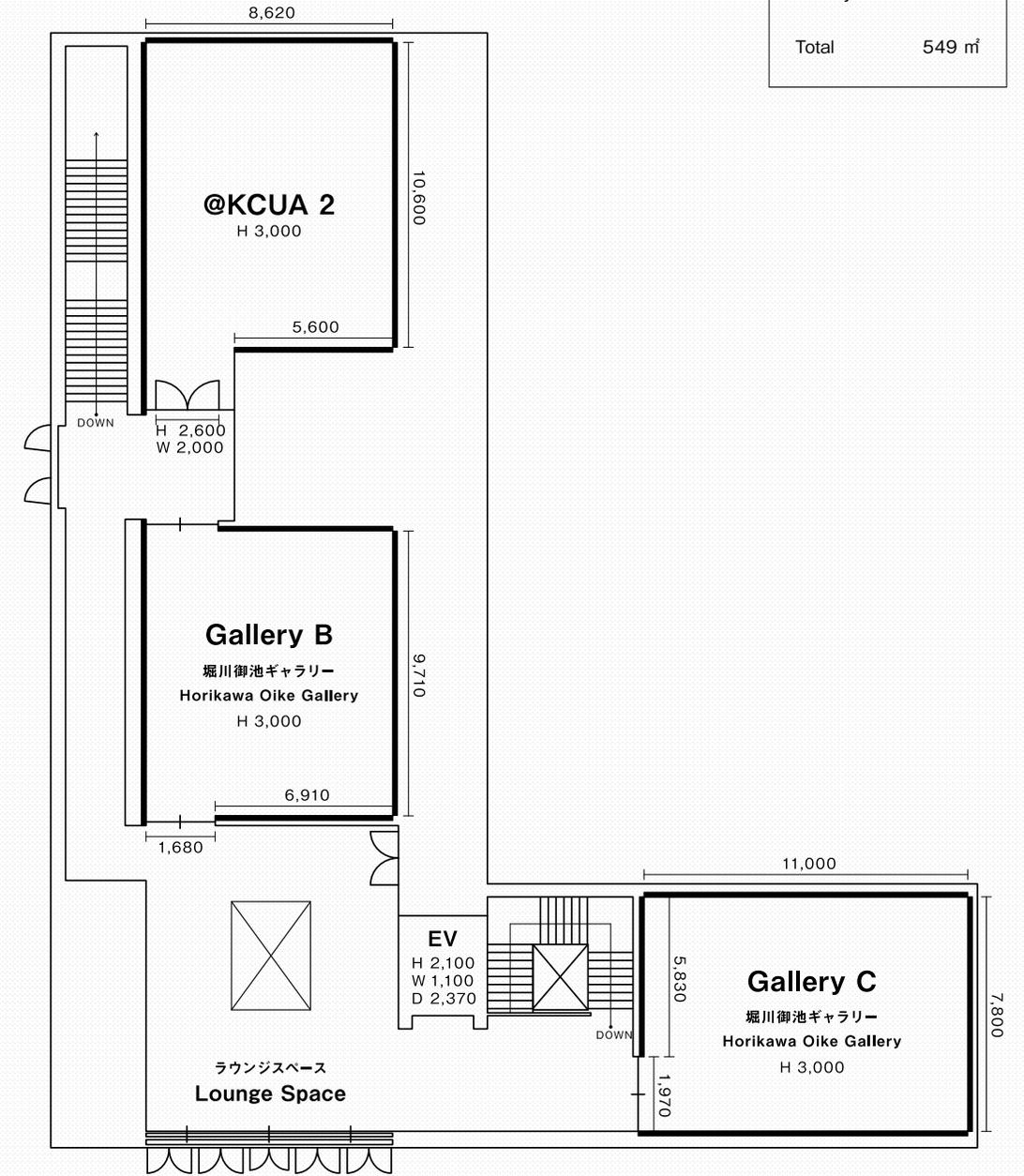
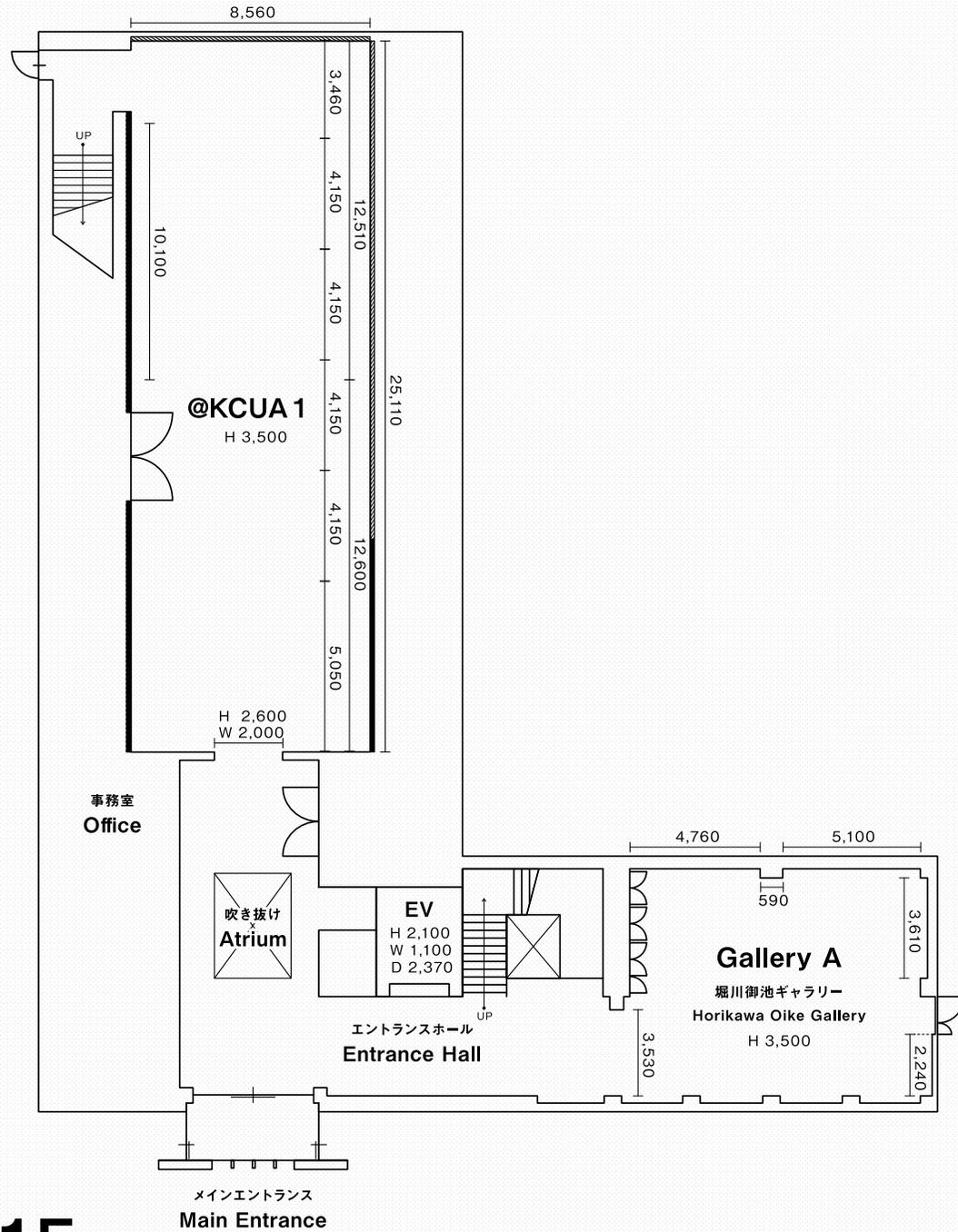
Plywood board / Withstand loads up to 40 kg

壁表面 : 石膏ボード、内部 : MDFボード 耐荷重15 kg

Wall surface: Plaster board / Core: MDF board / Withstand loads up to 15 kg

Floor size

@KCUA 1	215 m ²
@KCUA 2	91 m ²
Gallery A	74 m ²
Gallery B	83 m ²
Gallery C	86 m ²
Total	549 m ²



2015年度 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA 運営委員会組織

委員長

鶴田 憲次 @KCUA 長、堀川御池ギャラリー館長

委員

高橋 悟 @KCUA 担当理事
 藤原 隆男 美術学部長
 秋山 陽 美術研究科長
 伊東 徹夫 附属図書館・芸術資料館長
 大西 伸明 美術学部広報委員会委員長
 北村 敏則 音楽学部教員
 加須屋 明子 美術学部教員(副委員長)
 舟越 一郎 美術学部教員
 田鍬 智志 日本伝統音楽研究センター教員
 徳山 拓一 @KCUA 学芸員(2015年4月-5月、2015年12月-2016年3月)
 藤田 瑞穂 @KCUA 学芸員
 高畷 喜代彦 事務局長(連携推進課長兼任)
 天沼 憲 総務広報課長
 廣瀬 ちづる 連携推進課附属施設担当課長
 松尾 芳樹 附属図書館・芸術資料館学芸員

2015年

4月14日(火) 運営委員会
 6月5日(金) 企画申請部会・運営委員会
 7月24日(金) 運営委員会
 9月15日(火) 運営委員会
 10月2日(金) 企画申請部会・運営委員会
 11月5日(木) 企画申請部会・運営委員会
 12月16日(水) 運営委員会

2016年

3月7日(月) 運営委員会

2015年度 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA 運営体制

@KCUA 長 鶴田 憲次(堀川御池ギャラリー館長 兼任)
 @KCUA 担当理事 高橋 悟(京都市立芸術大学美術学部構想設計専攻教授)
 学芸員 徳山 拓一(2015年4月-5月、2015年12月-2016年3月)、藤田 瑞穂
 スタッフ 池田 亜耶子、岸本 光大*
 広報 西谷 枝里子*
 設営統括 池田 精堂*
 経理担当 安西 美恵子
 インターン 阿部 真弓、上杉 創平、田川 莉那、本田 耕人、松宮 恵子
 (* 2015年6月-11月 臨時職員)

文化庁 平成27年度「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」 ARTIST WORKSHOP @KCUA 2015 運営体制

事業担当 徳山 拓一、藤田 瑞穂
 アシスタント 吉田 桃子

京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA 2015年度(平成27年度)年次報告書

編集・発行：京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

〒604-0052 京都市中京区押油小路町238-1

TEL: 075-253-1509

FAX: 075-253-1510

URL: <http://gallery.kcuu.ac.jp>

装丁・組版：柳澤裕樹（サクサクデザイン）

印刷：株式会社グラフィック

発行日：2018年3月31日

© 2018 京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA Annual Report 2015-2016

Edited and published by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA

238-1 Oshiaburanokoji-cho, Nakagyo-ku, Kyoto 604-0052 JAPAN

Phone: +81-75-253-1509

FAX: +81-75-253-1510

URL: <http://gallery.kcuu.ac.jp>

Designed by Yuki Yanagisawa (Saku Saku Design)

Printed by Graphic Corporation

Published on March 31, 2018

© 2018 Kyoto City University of Arts